

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	学童ホール支援グループ
-----	-------------

取組の名称	子どもを見守るみんなの居場所作り事業
実施場所	たまっ子学童ホール
対象地域	川崎市多摩区
対象地域の 特色・課題	近隣に小学校が多くあり、子育て世代が多い地域である。 新しい保育園もでき、働く母親の多いことがわかる。 シニア世代も多いが、交流の場は少ない。
取組の趣旨・目的	・共働き家庭やひとり親家庭の親子を支援する。 ・地域の人も気軽に立ち寄れる、みんなの居場所を作る。 ・多世代が交流し、みんなで子どもを見守る。
実施内容・実施ス ケジュール	①放課後児童健全育成事業 学校がある日は放課後から、学校のない日は早朝から、保育にあたった。通年で、中学生以上のボランティアを受け入れ、保育の手伝いやたまっ子まつりの手伝いをしてもらった。 ②たまっ子どうぶつしょうぎ大会 (4/29、5/25、6/9、7/27、8/10、9/28、10/5、11/2、12/14、1/25、2/15) たまっ子まつり (7/14、12/1、3/9) ③こども食堂 (4/19、5/17、6/21、7/19、8/16、9/20、10/18、11/15、12/20、1/17、2/21、3/21)

参加者の年代	①小・中学生 ②幼児～大人 ③幼児～大人	定員 (1回あたり)	①25名 ②なし ③40名
実施頻度	①月曜～土曜日 ②しょうぎ大会 (年11回)たまっ 子まつり(年3回) ③月1回	活動日数 (年間)	302日
スタッフ体制	①2～5名 ②しょうぎ大会2～4名、たまっ子まつり5～10名 ③2～3名+菅ごはんの会		
連携する団体・ 連携の手法	菅ごはんの会 こども食堂は、事前にこちらで予約を受け付け買い出し をして、準備・調理・片付けをお任せしている。 こども食堂の当日は、15時半から台所と二階を貸し出す。		
取組実施により 見込まれた効果	①新型コロナウイルスは多少落ち着いたものの、インフル エンザ・胃腸炎・手足口病・りんご病が次々と流行った。 手洗いうがい、消毒を徹底しているため、学童内での感染 者は出さずに済んだ。 年間を通して広くボランティアを募ることで、小学校教諭 や保育士を目指す学生も受け入れ、お互いに良い経験とな っている。 健康保険福祉士が月2～3回保育に入ることで、児童の問 題行動やスタッフのメンタル面をサポートしている。 ②町内会の掲示板や、近隣の保育園・幼稚園に案内を貼ら せてもらったり、学童児や保護者が知り合いにチラシを渡 したりすることで、広く宣伝している。 たまっ子まつりは、タウンニュースにも掲載を依頼し、多 くの人が訪れた。学童児は店番を手伝い、地域の人との交 流も楽しんだ。 どうぶつしょうぎ大会は、たまっ子まつり開催月にも工夫 して開催することができた。地域の人や学校のお友だちな ど、誰でも気軽に参加できることで好評を得ている。 ③こども食堂は、シニア団体から変更してママさん団体に なったことで、毎月の開催が可能となった。		